

産業衛生技術部会 2024 年度第一回・第二回拡大幹事会
議事次第（案）

第一回：2024 年 5 月 20 日（月）10:00～12:00

オンライン（ZOOM）

<https://us06web.zoom.us/j/87990775838?pwd=yHfS2u6Syagpb1WrvqnaELYGaCjCB0.1>

ミーティング ID: 879 9077 5838

パスコード: 785492

第二回：2024 年 5 月 25 日（土）12:25～13:25

第 11 会場（中国新聞ビル 7F 703 会議室）

（注）学会期間中に開催する第二回拡大幹事会の時間が短いため、2 回に分けて開催させていただきます。

議事（案）

1. アジア労働衛生ネットワーク学会（ANOH）日本開催検討について（橋本部部长，資料 1）
2. 昨年度決算ならびに今年度予算について（会計担当，資料 2）
3. 教育研修の計画についての進捗報告（教育研修担当，資料 3）
 - (1) 34 回日本産業衛生学会全国協議会（2024/10/3～5，木更津）
 - (2) 第 98 回学会（2025/5，仙台）
 - (3) 第 35 回全国協議会（2025/11，徳島）及び、それ以降の企画案
 - (4) 本部企画研修について
4. 部会員向けアンケートの結果報告について（教育研修担当，資料 5）
5. 各地方会からの報告
6. その他

ANOH 学会の日本開催準備の進捗状況(2)

ANOH(*)の 2026 年年次学会の日本での開催に向けた検討については次のように幹事会で議論し進めてきました。その後の進捗、課題等を報告いたします。(*Asian Network of Occupational Hygiene, アジア産業衛生ネットワーク学会)

- 2023 年 9 月 18 日幹事会：本検討を進めることの承認を得た。
- 技術部会内検討チーム(ANOH コアチーム)の設置：山野, 中原(サブリーダー), 齊藤, 飯田, 貴志, 久保田, 橋本(チームリーダー)(敬称略)
- 2023 年 11 月 14 日幹事会：進捗状況の中間報告

現時点での状況を総括しますと、2026 年の開催を目指す場合は 2024 年前半から具体的な準備に取り掛かる必要がある一方で、現時点ではいくつかの重要な要素が不足しています。そこで、当面は開催時期を少し先に想定し、それらの要素を充足させることに注力することとし、仮に 2028 年頃を目指し準備を進めることが適切と考えられます。

－ 記 －

1. ANOH コアチームの主な活動・検討と結果概要

(1) 日本産業衛生学会本部への説明と協議

- 土肥・真鍋両担当理事にはよく主旨を理解いただき支援を得た。
- 学会業務執行理事と主に意見交換した。以下、主な内容。
 - ANOH 開催については、技術部会側が承認を求める段階に至っていないため、現時点ではまだ学会から未承認の状態。
 - 学会の意見として、産衛学会または技術部会が「主催者」とはなれない。主催者はあくまでも ANOH であり、開催地の団体は現地実行委員会となるべき。「主催者」が経済的な最終責任を負う。(例:ICOH)(注: 万一の赤字負担等を警戒してのこと)→ (2)項へ
 - 学会活動として盛り上げることは良いこと。
 - 部会費の充当は難しい。学会員全体の利益としての適当な対価かどうか不明瞭であるため。
 - 学会からの支援資金は、他の協賛学会並みに 30 万(仮)程度とのコメントあり。

(2) ANOH 本部との協議

- ANOH 事務局, DY Park 氏(元会長, 事実上の事務局長)に「主催者」に関し相談。
 - ANOH が主催者となれる可能性はあるだろう。
 - 過去には、第 1 回(ベトナム開催)のみ ANOH 主催。他は全て現地団体が主催。
 - 今後日本側の準備体制, 特に収支見通し(黒字)を ANOH 理事会に提案し, その合意による。

(3) 日本作業環境測定協会(日測協)との協議

- 技術部会と日測協との共同開催(注: 共同現地実行委員会)を提案
- 日測協側で検討した結果, 協会会員の大多数を占める測定機関や測定士の利益が小さいため, 共同開催には参加はできないとの結論(詳細, 別紙資料 2)

(4) PCO(外部委託業者)の検討(詳細, 別紙資料 1)

- フル委託時の費用見積額, 業者 A: 2,500 万円(会場費含)。
- 部分委託時, 業者 B: 2,100 万円(会場費含)

(5) 公的補助金の検討(詳細, 別紙資料 1)

- 東京都観光局(誘致 200 万+開催 500 万)
 - 海外から ~~100~~20 名以上, 合計 ~~250~~50 名の参加者が必要(取消部は最近の規約修正)
- 日本政府観光局(約 60~100 万)。

(6) 収支見込の検討(単位, 万円)

- 今後さらに検討を要す
- 収入: 参加費 800 + 企業協賛金 1,000? + 公的助成金 760 + 他 200? = 2,760 万
- 支出: PCO 2,500 (最大)+ 他 500 = 3,000 万

(7) ANOH 各国からの参加者数の検討

- 主要 8 カ国にアンケートを実施。ざっと平均すると 80~90 人の参加見込。
- 他の諸国, IOHA からの参加者, および家族の帯同を含めると 100 人は超えるであろう。

(8) 企業からの協賛金

- 正式な要請は未実施。有力者への口頭の打診では若干社から 100 万(以上)との回答を得ている。計 10 社として合計 1,000 万程度か(要検討)

(9) 会場の検討

- 都内 KFC(国際ファッションセンター)ホール(両国)が第一候補

2. 2026 年開催に向け, 不足している要素, および必要な対応策

(1) 準備のためのマンパワー(人員)(詳細, 別紙資料 1)

- 基本はボランティア, パートタイムで従事。週 2 時間強/9~18 か月稼働
 - PCO にフル委託ケース: 現地実行委員会側で相当の準備人員を要する。(10+ α 名程度)
 - 相当高額
 - PCO に依頼しないケース: 同 30+ α 名程度
 - 日測協の協力は無い
 - 技術部会内では現状協力者が不足(現在のコアチーム(7 名)+ α 程度)
 - その背景には, ANOH や国際協力についての理解・関心の低さがある
- ↓(対応案)

(4)へ

(2) 収支の見通し

- 現時点での支出見込額は相当高額。見通しが明確でない。(1-(6)参照)
 - ↓(対応案)
- PCO の精査(内容, 業者等), 人的リソースの提供量とのバランス
- 企業協賛金の精査
- その他の収入(?): 地場品展示等

(3) ANOH 側の問題

- ホームページ情報の不備
 - 紹介が不足, ページ未更新, 規約の不備, 会計情報の不備等

- 一般人, 学会本体, 外部団体, 企業等からの理解向上に関し, 大きく足を引っ張っている
- ANOH が主催者として開催することの, 一般的な合意がない
 - ↓(対応案)
- 2024 ANOH 学会時の理事会で提案し, ホームページや体制の改善を促す
- ANOH が主催者となる可能性についても, 同意を得る

(4) ANOH に関する関心が低い

- 準備の協力者数と開催時の参加者数に直結
 - ↓(対応案)
- ANOH に関する理解を高め, かつ参加者・発表者を増やすよう技術部会が活動する。
 - 学会企画等で ANOH を中心とした国際協力についてのセッションを継続して行う。
 - 技術部会ホームページ, 学会誌, その他媒体での広報
- 技術部会以外, および産衛学会以外への働き掛け, 関心を高める
 - 産業医, 産業保健看護職
 - 日測協へ継続的な情報提供・協議(ハイジニスト等)(支援金の可能性も?)
 - 他団体(労働衛生工学会, 中災防, コンサルタント会他)

3. 現時点で未確定だが, 今後進捗できると見込める要素

(1) 学会本部への説明と協議

- 上記 2 の事項が解決すれば, 問題はないと予想
- より多くの支援金が得られるとよい(希望)

4. 今後の方針(案)

- 学会本体には本幹事会の結果等を説明し, 状況の理解を得る。
- 現状の ANOH コアチームを中心に, 上記「2」の必要な対策を進める。
 - 状況を見つつコアチームメンバーの増加を図る
- 2025 年秋には関東地方会関東技術部会主催での関東地方会学会(於東京都)が予定されており, これで学会開催に関する経験を積む機会となりうる。(注: コアチームとは直接関係はない)
- まずは, 2024 年 ANOH マレーシア学会について広報し参加者増に努める。
- 次のような要素が整えば, 近い将来の ANOH 日本開催が現実化すると想定
 - 準備協力者数の充足
 - 収支見通し(わずかでも確実な黒字が見込めること)
 - ANOH 側の HP 等の整備
 - ANOH への関心の増加

以上

PCO 関係：

2 団体にヒアリング実施結果の概要

- ・ コンベンションリンクージ (<https://www.c-linkage.co.jp/ja/index.html>)
 - 学会運営全体での依頼のみ可能
 - ただし、プログラム、予稿集、ポスター／チラシ作成や同時通訳システムなどは主催者側が経費の支払いを含めて対応する必要がある。
 - プログラム等の作成を除いた「学会運営全体」を依頼した場合、2,500 万円程度の見積もり金額が提示された。
 - プログラム作成や同時通訳システムなどは約 500 万円程度必要とのこと（見積書に「参考」として記載あり）であるため、上記学会運営全体の経費と併せて約 3,000 万円程度の経費が必要であることが示唆された。
 - 当該 PCO は独自に会議場（秋葉原駅近郊）を所有しており、当該会議場を活用すると比較的会場費は抑えられる。

- ・ T-LIFE ホールディング (<https://www.t-life.co.jp/>)
 - 学会運営の一部のみの依頼が可能
 - 学会運営の本当に専門家ではないと難しい部分のみの依頼が可能
 - 具体的には、支払いシステムや抄録受付システムなどを備えたホームページ作成・運営、現場での総指揮／リハーサル／事前研修など
 - 合計で 2,100 万円程度の見積もり金額が提示された。
 - 内訳はホームページ制作 273 万円、運営費 807 万円、会場・付帯設備試算 768 万円、同時通訳システム 252 万円
 - 各項目の詳細については 6 月に説明を頂く予定。
 - 一括での支払いが難しい場合、半額（または半額未満）の手付金を支払い、不足分は後日の支払いといった対応も可能（要相談）

事務局運営を PCO に依頼せずに行う場合に必要となる人数の概算

(コンベンションリンクージ見積書より算出)

- ① 事務局運営スタッフ (見積り書 1.事務局運営費より)
 - 学会開催 18-9 か月前：プロ対応で 15 時間/週必要
 - アマチュアは 2 倍時間がかかると仮定して 30 時間/週
 - 学会開催 9 か月前-当月：プロ対応で 24 時間/週必要
 - アマチュアは 2 倍時間がかかると仮定して 48 時間/週。
 - 学会員が ANOH 運営に使用できる時間を最大で週に半日と仮定して
 - 学会開催 18-9 か月前：20 人スタッフがいたとして、1.5 時間/週/人
 - 学会開催 9 か月前-当月：20 人スタッフがいたとして、2.4 時間/週/人
 - 上記から、ANOH に 1 日 30 分程度対応するとした場合
 - 事務局運営スタッフ数：20 人ほど必要になるものと試算される

- ② 主催者側対応となっている項目 (プログラム、予稿集作成) に係るスタッフ (5.プログラム、抄録作成より)
 - 抄録作成：62 万÷1500 円/時間＝プロ対応で 413 時間ほどの作業
 - アマチュアは 2 倍時間がかかると仮定して 826 時間
 - 10 人のスタッフが 9 か月活動すると仮定すると、2.3 時間/週/人
 - プログラム、抄録作成スタッフ数：10 人ほど必要になるものと試算される

上記①及び②を踏まえると、**30 人ほどの運営スタッフ**が必要と考えられます。(ある程度、この 30 人が滞りなく情報共有が可能であることが前提)。

なお、6 月に T-LIFE から見積書の内容について詳細説明を頂くため、試算結果は多少前後するおそれがある。

助成金：東京観光財団及び日本政府観光局

- 東京観光財団 助成金【誘致 200 万、開催 500 万】への応募条件
 - 開催地が未定でライバル地がある
 - コンペで開催地が決まる
 - 現地参加 50 人以上 (その内、海外参加者は 20 人以上)
 - ◇ 本年度から参加人数の下方修正
 - ◇ ただし、2028 年に再度変わっている可能性はある
 - 参加国 3 か国以上

- 日本政府観光局 支援金
 - 主催が国際団体
 - 参加 50 名以上
 - 定期開催、開催地ローテーション
 - 誘致と開催、それぞれに 30-50 万
 - メーカーからの寄付金を日本政府観光局への寄付とすることで非課税になる

To :

日本産業衛生学会

御中

No:29337E

02 February 2024
year month day

Asian Network Occupational Hygiene, ANOH

件名： 2026年9月～10月開催

株式会社 コンベンション リンケージ

Re： 事前準備・当日運営費（現地開催）

〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町K Sビル
TEL 03-3263-8686 FAX 03-3263-8687

Convention Linkage, Inc.

Sanbancho KS Bldg., 2 Sanbancho, Chiyoda-ku, Tokyo

合計金額

¥24,932,650 . -

担当：宮元 優美歌 / 宮川 瑠理子

Grand Total

項目 Item	数量 Quantity	単価 Unit Price	金額 Amount
1 事前準備費			7,520,000
2 当日運営費			13,245,000
3 事後処理費			200,000
4 管理費			2,096,500
<p>会議概要</p> <p>1) 会議名：Asian Network Occupational Hygiene, ANOH</p> <p>2) 会期並びに会場（予定）</p> <p>①会期：2026年9月～10月（2.5日間） ※前日設営、終了日撤去</p> <p>②会場：KFC Hall & Rooms または 秋葉原コンベンションホール</p> <p>3) 参加者見込数</p> <p>①海外：約100名</p> <p>②国内：約100名 合計：約250名（ボードメンバーを含む）</p>			
小計 Sub Total			23,061,500
消費税 Consumption Tax			1,871,150
合計 Grand Total		(税込)	¥24,932,650 . -

ANOH 日本開催に関する日本作業環境測定協会との打ち合わせ (メモ)

日時：2024/4/23

場所：仏教伝道会館 会議室

参加者：(技術部会) 橋本, 中原, 山野, 齊藤

(日測協) 飛鳥, 三浦, 丸山, 増淵

1. 技術会からの状況説明

- 当初, 2026 年開催を検討していたが, 事務局レベルでは 2026 年開催は無理との判断で, 2028 年以降に延期することを検討している。
- 部会内, ならびに産業衛生学会内での ANOH を含めた国際協力への理解を深め, 機運を高める必要があると考えている。
- 学会理事会からは, 学会 (部会を含む) の主催は NG との見解が示されているが, ANOH からは, 日本開催において ANOH が主催者になることは可能との見解を得ている。

2. 日測協のスタンスの説明

- 日測協としては, 業務が非常に逼迫しており, 人的リソースもないため, ANOH 日本開催に参加することは困難, せいぜい協賛程度と考えている。
- プレゼンターを出す, 広報を会員あてに行う, 演者としてハイジニストに打診する, 程度は可能か。
- 会員向けアンケート結果では, 測定士からはほとんど関心ないとの回答(回答者 40 名)。COH からも, 回答 37 名中, 発表予定 0 名, 参加予定 2 名という状況。日本で開催した場合, 参加を検討するという回答は 12 名。
- COH は急速に増えているが, 現時点では人数的にも限られており, 現状では自律的管理対応をはじめとする国内対応に追われているため, 世界に目を向けるには時期尚早と思われる。
- 理事会に諮問したが, 余り関心が得られていない状況。ANOH の団体としての透明性に懸念があるとの意見が出された。

3. 寄せられた意見

- ANOH の開催意義はあると考えるので, 企画を進めるのは良いと思うが, そのためには企画を有意義なものにする必要がある (丸山)
- ANOH の運営枠組みをしっかりとさせていただく必要がある (丸山)
- 日測協の設立意義から, 会員に対してのメリットを示す必要がある (飛鳥)
- 仮に資金的な負担を行う場合, 用途を明確にしてほしい (理事会メンバーの食事代等は問題になる可能性が高い) (飛鳥)

- PDC (教育講演) は不要ではないか? 日本人が聴いてメリットが有る内容でないと, 日本人は参加しないのでは? (飛鳥)
- 日測協としても, ANOH の情報をいただければ会員に配信する用意はある (飛鳥)
-

4. 結論

- 2026 年開催は無理と判断し, 2028 年以降の開催を目指して検討する。
- 日測協が ANOH 日本開催に関与することは困難。せいぜい協賛レベル止まり。すなわち, 開催される場合は事実上技術部会の単独開催となる可能性が高い。
- 現状では測定士, COH とも, ANOH に対する関心が高いとは言えない状況。
- 開催にこぎつけるためには, 学会企画等を通じて理解と機運を高めていく必要がある。

以上。

項目	数量				単価	合計	消費税 対象外	管理費 対象外	備考
1 事前準備費						7,520,000			
(1) 事務局						3,655,000			
1 事務局運営費						3,600,000			会期：2026年9月～10月（2.5日間）
2025年4月～12月	9	ヵ月			@ 150,000	1,350,000			想定：参加者対応等、週3日×5時間/日対応想定
2026年1月～2026年9月	9	ヵ月			@ 250,000	2,250,000			想定：打合せ対応、参加者対応、会場調整等、週4日×6時間/日対応想定
2 各種管理費						55,000			
メールアドレス管理費（事務局アドレスの設定・管理）	1	式			@ 5,000	5,000			
事務局通信費	1	式			@ 50,000	50,000			
銀行口座開設・管理費	1	口座			@ 50,000	ご参考			主催にて開設想定
(2) 各種印刷・制作物						1,380,000			
1 デザイン制作						50,000			
ロゴデザイン策定	1	式			@ 150,000	ご参考			
基本キービジュアル提案	1	式			@ 150,000	ご参考			
タイトルバック	1	式			@ 50,000	50,000			3会場想定
2 ポスター・チラシ制作						0			必要に応じて、御見積り
ポスター印刷費		部			@	主催対応想定			想定額、A0サイズ
チラシ印刷費		部			@	主催対応想定			想定額、A4サイズ
ポスター・チラシセット組・筒梱包・発送		箇所			@	主催対応想定			
ポスター・チラシセット都内一括納品		箇所			@	主催対応想定			
3 ホームページ作成・管理						955,000			
サーバ維持管理費	16	ヶ月			@ 5,000	80,000			想定期間：2025年9月～2027年1月末
ドメイン取得	1	式			@ 5,000	5,000			
データ保守（メンテナンス）	16	ヶ月			@ 10,000	160,000			想定期間：2025年9月～2027年1月末
Webページ作成（デザイン・テキスト作成）	1	式			@ 500,000	500,000			想定：英語、メニュー6項目程度
更新作業	10	回			@ 15,000	150,000			想定回数
翻訳費	10	頁			@ 6,000	60,000			想定：A4サイズ1枚あたり（日→英）
4 スポンサー・展示用趣意書						200,000			
協賛趣意書データ作成費	1	式			@ 100,000	100,000			想定：文字校正、編集、A4サイズ、4色、6ページ（PDF納品）
出展要項作成費	1	式			@ 100,000	100,000			想定：文字校正、編集、A4サイズ、4色、6ページ（PDF納品）
出展社マニュアル作成費	1	式			@ 100,000	ご参考			想定：文字校正、編集、A4サイズ、4色、6ページ（PDF納品）
5 プログラム・抄録集						0			
データ処理・保存作業	40	演題			@ 500	主催対応想定			一般演題、シンポジウム他 想定演題数
プログラム抄録集、PDFデータ制作	1	式			@ 500,000	主催対応想定			想定：ウェブ掲載
プログラム編成補助、前付け作成業務	1	式			@ 100,000	主催対応想定			想定：前付け・後付け（12頁程度）
6 その他						175,000			
a) 消耗品									
ネックストラップ	250	本			@ 200	50,000			想定数
名札	250	個			@ 500	125,000			想定：A4サイズ、ミシン目入り想定（ソーシャルイベントチケット含む）
コングレスバッグ	250	個			@ 1,000	ご参考			想定数・想定金額
b) 記念品									
記念品	250	個			@ 1,000	ご参考			想定数・想定金額
(3) 登録システム関連						1,285,000			
1 参加・演題登録システム						1,285,000			
登録システム作成費	1	式			@ 800,000	800,000			参加登録・演題登録 クレジット決済システム等含む
基本システム保守費	1	式			@ 150,000	150,000			
サーバ使用料	13	ヶ月			@ 20,000	260,000			想定期間：2025年9月～2026年10月
決済手数料	250	名		4%		実費請求	*		想定件数、参加者全員がクレジットカードで支払ったと想定 手数料4% ※クレジット会社による
入金確認管理費	250	件			@ 300	75,000			想定人数、個人データ保守管理含む
2 参加者対応						0			
ビザ申請書類作成	30	件			@ 20,000	ご参考			想定件数
ビザ申請書類発生費用（EMS発送想定）	5	件			@ 3,000	ご参考	*		想定件数、実数精算
(4) 招聘関係費						1,200,000			
宿泊費（第一ホテル両国の場合）	20	名	4	泊	@ 15,000	1,200,000	*		想定人数・想定金額
宿泊費（東京ドームホテルの場合）	20	名	4	泊	@ 20,000	ご参考			想定人数・想定金額
謝礼金		名			@	想定項目			
交通費		名			@	想定項目			
送金管理手数料		名			@	想定項目			
2 当日運営費						13,245,000			
(1) 人件費						2,806,000			
4日間 ※前日設営、終了後撤去									
1 ディレクター						1,300,000			
統括ディレクター	1	名	4	日間	@ 70,000	280,000			
受付ディレクター	1	名	4	日間	@ 60,000	240,000			
ガラ・ディナーディレクター	1	名	1	日間	@ 60,000	60,000			
会場ディレクター	3	名	4	日間	@ 60,000	720,000			3会場
2 スタッフ						555,000			スタッフの拘束時間は1日8時間（実働7時間）を基本とする
事務局スタッフ	1	名	3	日間	@ 25,000	75,000			
受付スタッフ(初日)	4	名	1	日間	@ 25,000	100,000			
受付スタッフ(2日目～3日目)	2	名	2	日間	@ 25,000	100,000			
進行補助スタッフ	3	名	3	日間	@ 25,000	225,000			
展示/ポスター会場スタッフ	1	名	3	日間	@	学生ボランティア想定			
誘導スタッフ	2	名	3	日間	@	学生ボランティア想定			
超過時間		名		時間	@ 2,750	想定項目			
スタッフオリエンテーション費	11	名			@ 5,000	55,000			

項目	数量				単価	合計	消費税 対象外	管理費 対象外	備考
3 オペレーター						900,000			
映像オペレーター	6名	3日間			@ 50,000	900,000			
PC受付オペレーター	2名	3日間			@ 50,000	ご参考			
4 その他						51,000			
MC (バイリンガル)	1名	3日間			@ 60,000	ご参考			開閉会式、ガラ・ディナー
スチールカメラマン	2名	3日間			@ 100,000	ご参考			
ディレクター・スタッフ交通費	17名	3日間			@ 1,000	51,000			想定：往復料金
(2) 会場費						2,500,000			
会場費 (KFCの場合)	1式				@ 2,500,000	2,500,000			想定：KFCホール、KFCホールアネックス、ROOM101-103、ROOM112
会場費 (秋葉原コンベンションホールの場合)	1式				@ 3,242,000	ご参考			想定：2Fホール、5F会議室 (5C)
(3) 会場関連費						7,839,000			想定：秋葉原コンベンションホール
4日間 ※前日設営、終了後撤去									
1 機材						3,299,000			
a) 参加登録受付						35,000			
総合案内用PC	1台				@ 35,000	35,000			
ネームカード印刷用プリンター	1台				@ 50,000	ご参考			
b) PC受付						0			
PC受付機材	2窓口				@ 160,000	ご参考			
PC受付システム	1式				@ 60,000	ご参考			
c) メイン会場						820,000			
プロジェクター (レンズ込)	1台	3日間			@ 260,000	会場備品想定			
映写台	1台	3日間			@ 9,000	会場備品想定			
ノートPC (Windows)	3台	1日間			@ 35,000	105,000			
ノートPC (Mac)	1台	1日間			@ 45,000	ご参考			想定：Mac OSの場合はご本人お持ち込み
スイッチャー	2台	3日間			@ 30,000	180,000			
23.8型ディスプレイ	1台	3日間			@ 12,000	36,000			機材卓
15.6型ディスプレイ	2台	3日間			@ 8,000	48,000			座長卓・演台
計時回線	1台	3日間			@ 8,000	24,000			
ワイヤレスクリッカー	1台	3日間			@ 5,000	15,000			
レーザーポインター	1台	3日間			@ 2,000	6,000			
手元灯	4台	3日間			@ 500	6,000			
周辺機器	1式				@ 400,000	400,000			ケーブル、コンバータ、分配器、スプリッター、ミキサー、ヘッドホン、トランスミッター等
d) サブ会場①						550,000			
プロジェクター	1台	2日間			@ 70,000	会場備品想定			
映写台	1台	2日間			@ 5,000	会場備品想定			
ノートPC (Windows)	4台	1日間			@ 35,000	140,000			
ノートPC (Mac)	1台	1日間			@ 45,000	ご参考			想定：Mac OSの場合はご本人お持ち込み
スイッチャー	1台	2日間			@ 30,000	60,000			
21.5型ディスプレイ	1台	2日間			@ 8,000	16,000			演台
計時回線	1台	2日間			@ 8,000	16,000			
ワイヤレスクリッカー	1台	2日間			@ 5,000	10,000			
レーザーポインター	1台	2日間			@ 2,000	4,000			
手元灯	4台	2日間			@ 500	4,000			
周辺機器	1式				@ 300,000	300,000			ケーブル、コンバータ、分配器、スプリッター、ミキサー、ヘッドホン、トランスミッター等
e) サブ会場②						1,600,000			
プロジェクター	1台	2日間			@ 70,000	会場備品想定			
映写台	1台	2日間			@ 5,000	会場備品想定			
ノートPC (Windows)	4台	1日間			@ 35,000	140,000			
ノートPC (Mac)	1台	1日間			@ 45,000	ご参考			想定：Mac OSの場合はご本人お持ち込み
スイッチャー	1台	2日間			@ 30,000	60,000			
21.5型ディスプレイ	1台	2日間			@ 8,000	16,000			演台1台
計時回線	1台	2日間			@ 8,000	16,000			
ワイヤレスクリッカー	1台	2日間			@ 5,000	10,000			
レーザーポインター	1台	2日間			@ 2,000	4,000			
手元灯	4台	2日間			@ 500	4,000			
周辺機器	1式				@ 300,000	300,000			ケーブル、コンバータ、分配器、スプリッター、ミキサー、ヘッドホン、トランスミッター等
機材設営・撤去	1式				@ 600,000	600,000			
機材運搬費	1式				@ 450,000	450,000			
f) 展示/ポスター/コーヒープレイク/ランチ会場						144,000			
システムパネル	20枚				@ 2,500	50,000			想定：10ブース
テーブル	10台				@ 3,000	30,000			想定：10ブース
テーブルクロス	10枚				@ 1,500	15,000			想定：10ブース
社名板	10枚				@ 4,800	ご参考			
コンセント	3個				@ 2,500	7,500			想定数
電気工事費	3箇所				@ 12,000	36,000			想定数
ポスター展示ボード	20枚				@ 275	5,500			想定：40演題、両面使用
ポスター掲示番号	40題				@ 600	ご参考			想定数
g) 事務局						150,000			
ノートPC (Windows)	1台				@ 35,000	35,000			
複合機	1台				@ 75,000	75,000			
コピー用紙	1式				@ 5,000	5,000			想定：A4サイズ、A3サイズ
コピー代：カラー	300枚				@ 25	実数精算			
コピー代：モノクロ	200枚				@ 12	実数精算			
IP無線機	10台				@ 3,500	35,000			設営日を含む

項目	数量				単価	合計	消費税 対象外	管理費 対象外	備考
2 インターネット						0			
Wi-Fi	1 式		4 日間						会場既存利用
									設営日を含む、参加者用
3 装飾関連						320,000			
ステージ装飾 (吊り看板)	1 式				@ 120,000	120,000			メイン会場内
誘導・各種表示看板	20 枚				@ 7,000				紙書き対応想定
会場入口看板	1 枚				@ 100,000				ご参考
受付看板/会場マップ	2 枚				@ 40,000				ご参考
展示会場案内看板	1 枚				@ 100,000				ご参考
搬入・設置・撤去費	1 式				@ 200,000	200,000			
4 催事関連						4,220,000			
a) 開会式						100,000			
進行台本作成	1 式				@ 100,000				ご参考
アトラクション (カルチャー・プレゼンテーション)	1 式				@ 100,000	100,000			想定金額 和太鼓、お囃子等
記念品 (アトラクション出演者)	15 個				@ 5,000				ご参考
b) コーヒーブレイク						220,000			KFCケータリング 1日2回、午前1回午後1回想定
ティータイムセット (KFCケータリング)	250 杯	0.8 掛け	5 回		@ 220	220,000			コーヒー(Hot/Ice)、紅茶(Hot/Ice)、オレンジジュース、クッキー & チョコ 配送費を含む
ホットコーヒー (秋葉原コンベンションホール ケータリング)	250 杯	0.8 掛け	5 回		@ 350				ご参考
茶菓 (秋葉原コンベンションホール ケータリング)	1 式	2 回			@ 30,000				ご参考
配達運搬費 (秋葉原コンベンションホールの場合)	1 式	3 日間			@ 10,000				ご参考
c) 昼食						750,000			
お弁当 (バックドリンク付き) (KFCの場合)	250 名	2 日間			@ 1,500	750,000			KFC会席弁当 (柚、桐、榎、榎、椿、樹のいずれか)
お弁当 (バックドリンク付き) (秋葉原コンベンションホールの場合)	250 名	2 日間			@ 1,540				ご参考
d) ガラディナー (第一ホテル両国)						3,150,000			第一ホテル両国「清澄」 2時間利用 立食ビュッフェ
会場費 (第一ホテル両国 清澄、2時間利用)	1 式				@				お料理を含む
お料理	300 名	0.8 掛け			@ 10,000	2,400,000	*		想定金額 室料、音響・照明費、サービス料、税金を含む
ドリンク	300 名				@ 2,500	750,000	*		想定金額 サービス料、税金を含む
会場費 (東京ドームホテル 天空B、2時間利用)	1 式				@ 271,200				ご参考
お料理	300 名	0.8 掛け			@ 11,300				ご参考
ドリンク	300 名				@ 3,390				ご参考
音響照明	1 式				@ 50,000				ご参考
ステージ	1 式				@ 36,000				ご参考
料理卓装花	1 式				@ 200,000				ご参考
会場内看板	1 式				@ 69,000				ご参考
アトラクション	1 式				@ 300,000				ご参考
進行台本作成	1 式				@ 100,000				ご参考
移動用大型バス (45名乗リバス)	9 台				@ 130,000				ご参考
e) プレ・ポストツアー						0			必要に応じて、御見積り
運行管理者	名				@ 55,000				ご参考
バスガイド	名				@ 35,000				ご参考
大型バス	台				@ 150,000				ご参考
昼食 (バックドリンク付き)	名				@ 1,500				ご参考
有料道路・駐車場	式								実費精算
(4) その他						100,000			
1 マニュアル						100,000			
運営マニュアル	1 式				@ 100,000	100,000			想定：印刷を含む
3 事後処理費						200,000			
(1) 事務局						200,000			
1 事務局運営費						200,000			
2026年10月～2026年11月	2 ヵ月				@ 100,000	200,000			
4 管理費						2,096,500			
上記より10% (**を除く)	20,965,000	10%				2,096,500			2,096,500
小計						23,061,500			
消費税 (*を除く10%)						1,871,150			
合計						24,932,650			

収支計算書
2023年 3月 1日から2024年 2月29日まで

産業衛生技術協会

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益	0	0	0	
協賛金等収益				
参加料収益				
その他事業収益				
受取補助金等	600,000	598,863	1,137	
受取本部助成金	600,000	598,863	1,137	
受取国庫助成金			0	
受取地方公共団体助成金			0	
受取民間助成金			0	
受取補助費	0	0	0	
受取寄付金	0	0	0	
雑収益	0	49,562	-49,562	謝金過剰分返金+利息
受取利息		22	-22	
受取利息		49,560	-49,560	謝金過剰分返金(共催団体員)
経常収益計	600,000	648,445	-48,445	
(2) 経常費用				
事業費	835,000	1,120,090	-285,090	
臨時雇賃金				
会議場通費	50,000	119,350	-69,350	7/22研修会会場費
通信運搬費	50,000	172,811	-122,811	運営旅費
減価償却費		12,284	-12,284	ZOOM代
印刷製本費		287,496	-287,496	個人ばく露測定ガイドライン印刷代、校正料
消耗什器備品費		8,186	-8,186	LANケーブル
印刷製本費			0	
機関誌発行費			0	
広報洗外費		10,046	-10,046	研修会会場下見、研修会案内印刷、等
研究費			0	
学会謝金	80,000	240,000	-160,000	演者、座長17名
協議会助成金			0	
大会助成金			0	
大会研修会助成金			0	
地方会助成金	200,000	56,500	143,500	九州地方会
委員会費			0	
研究会費	300,000		300,000	
国際交流費	150,000	156,823	-6,823	IAHOH年会費
関係保守費			0	
雑費	5,000	56,594	-51,594	銀行振込手数料、特別厚労賞記念品代、演者(非学会員)学会参加費、研修会弁当代、議事録補助アプリ(事務局長)、賞
費	385,000	78,128	307,872	
給料手当				
理事幹事会費	100,000	54,698	45,302	拡大幹事会昼食代、等
旅費	100,000		99,280	
通信運搬費	30,000		30,000	
役員改選費			0	
印刷製本費	2,000		2,000	
消耗什器備品費	150,000		150,000	
印刷製本費	2,000		2,000	
委員会費			0	
広報洗外費			0	
委託費			0	
委託費	2,000	22,710	-20,710	田中茂先生お花代、等
経常費用計	1,221,000	1,198,218	22,782	
評価損益等調整前当期経常増減額	-621,000	-549,773	-71,227	
評価損益等計			0	
当期経常増減額	-621,000	-549,773	-71,227	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	
当期経常外増減額			0	
当期一般正味財産増減額	-621,000	-549,773	-71,227	
一般正味財産期首残高	2,300,000	2,538,973	-238,973	
一般正味財産期末残高	1,679,000	1,989,200	-310,200	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額			0	
指定正味財産期首残高			0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	1,679,000	1,989,200	-310,200	

監査結果報告

日本産業衛生学会産業衛生技術部会の 2023 年度の会計関係の帳簿等をもとに監査いたしましたところ、会計は適切に処理されていることを確認いたしました。ここにご報告いたします。

2024年 3月 / 日

産業衛生技術部会 監事

加藤隆康 

収支予算書

2024年 3月 1日から2025年 2月28日まで

産業衛生技術部会

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益	0	0	0	
協賛金等収益			0	
参加登録料収益			0	
資格認定料収益			0	
その他の事業収益			0	
受取補助金等	600,000	600,000	0	
受取本部助成金	600,000	600,000	0	
受取国庫助成金			0	
受取地方公共団体助成金			0	
受取民間助成金			0	
受取負債担保金	0	0	0	
受取活動費			0	
受取寄付金	0	0	0	
受取寄付金			0	
雑収益	0	0	0	
受取利息			0	
雑収益			0	
経常収益計	600,000	600,000	0	
(2) 経常費用				
事業費	1,035,000	835,000	200,000	
臨時雇賃金			0	
会場費	120,000	50,000	70,000	2023年度 活動実績より
旅費	150,000	50,000	100,000	2023年度 活動実績より
通信運搬費			0	
減価償却費			0	
印刷製本費			0	
消耗什器備品費			0	
懇親費			0	
消耗品費			0	
機関誌発行費			0	
広報渉外費			0	
研究費			0	
諸謝金	160,000	80,000	80,000	2023年度 活動実績より
学会助成金			0	
協議会助成金			0	
大会研修会助成金			0	
部会助成金			0	
地方会助成金	150,000	200,000	-50,000	2023年度 活動実績より
委員研究会費			0	
委託会費			0	
国際交流費	300,000	300,000	0	海外資料翻訳
開発保守費	150,000	150,000	0	ANOH年会費
雑費			0	
管理費	5,000	5,000	0	
給料手当費	662,000	386,000	276,000	
理事幹事会費			0	
旅費	100,000	100,000	0	
通信運搬費	100,000	100,000	0	
役員改選費	30,000	30,000	0	
印刷製本費	280,000	2,000	278,000	個人ばく露測定ガイドライン(要約版)400部印刷
消耗什器備品費	150,000	150,000	0	
消耗品費	150,000	150,000	0	
職員報奨費	2,000	2,000	0	
広報渉外費			0	
委託費			0	
雑費		2,000	-2,000	
経常費用計	1,697,000	1,221,000	476,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	-1,097,000	-621,000	-476,000	
評価損益等計			0	
当期経常増減額	-1,097,000	-621,000	-476,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計			0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	
当期経常外増減額			0	
当期一般正味財産増減額	-1,097,000	-621,000	-476,000	
一般正味財産期首残高	1,980,000	2,300,000	-320,000	
一般正味財産期末残高	883,000	1,679,000	-796,000	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額			0	
指定正味財産期首残高			0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	883,000	1,679,000	-796,000	

令和6年5月25日

産業衛生技術部会 拡大幹事会 御中

教育研修担当 中村、川上

教育研修の計画についての進捗報告

現在準備を進めている企画について、以下の通り報告する（敬称略）

1. 第34回日本産業衛生学会全国協議会（2024/10/3～5，木更津）の進捗状況報告

1.1 小規模事業場の産業保健活動における地域産業保健センター（地産保）の現状と課題（仮）

日程：10/3（木）16:00～18:00，第三会場

座長：齊藤宏之（労働安全衛生総合研究所）

	テーマ（仮）	演者
1	産保センター・地産保精度の概要と現状について（仮）	稲毛健一（労働者健康安全機構）
2	産業保健総合支援センターより、産保センターとしての取り組み（仮）	亀田真紀（石川産業保健総合支援センター）
3	地域産業保健センターにおける産業保健活動の紹介（仮）	松本雅彦（大宮地域産業保健センター）
4	中小企業安全衛生研究会から、地産保に求めること（仮）	森口次郎（京都工場保健会）
5	産業衛生技術専門家から、地産保に求めること（仮）	中原浩彦（NAOSH コンサルティング）

1.2 一歩先の産業衛生技術を切り拓く ～社労士との連携～（仮題）

日程：10/4（金）16:15～18:15，第三会場

座長：牛澤浩一（理化学研究所）

	テーマ（仮）	演者
1	社労士の身分と業務（産業衛生技術者向けに）	小堺寿代（小堺社労士事務所）
2	安全衛生・労災防止に対する社労士の関わり、専門職や外部専門家との関わりについて	江口泰弘（FP・社会保険労務士事務所 富士山）
3	産業衛生技術者の現状と問題点	石山智子（秋田環境測定センター株式会社）
4	中小企業安全衛生研究会から、地産保に求めること（仮）	下中洋一（株式会社高見沢分析化学研究所）
5	協働と連携について	野口清（野口労務安全管理事務所）

2 第 98 回 日本産業衛生学会（2025 年 5 月 14~17、仙台）

事務局案は以下の通り

- 適切な化学物質リスクアセスメント結果の見分け方

適切なリスクアセスメントの事例を紹介したうえで、他者から受け取ったリスクアセスメント結果のチェック方法を紹介したい。

- 受動喫煙対策

2020 年に健康増進法が改正され、受動喫煙対策が罰則付きで義務付けられた。しかし、半年後のパンデミックの拡大により話題に上らなくなった。パンデミック終息により職場に人が戻り受動喫煙対策に頭を悩ませる関係者が増えていると推測している。受動喫煙対策のおさらいと最新の情報について提供したいと考えている。

3 本部企画研修について

本年 12 月に予定している東海地方会研修会に本部が連携することを検討していた。諸般の事情により当該研修会は地方会単独で開催することになった。来年度以降に改めて本部企画研修の実施について検討を継続する。

以上

第 34 回日本産業衛生学会全国協議会（2024/10/3～5，木更津）の企画案

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会

テーマ 2：一步先の産業衛生技術を切り拓く ～社労士との連携～ （仮題）

提案者：牛澤浩一（理化学研究所）

趣旨：

社会保険労務士(社労士)は労働社会保険手続き、労務管理における相談、年金相談等を業とする「人」に関する専門家であり、主に中小零細企業等の成長のために寄与している。労災保険手続き、労働基準監督署への対応、安全衛生に関する助成金申請などの取扱いから労働災害防止の観点からも顧客のニーズがあるが、安全衛生についてはその技術的事項に専門性が求められるため、安全衛生に踏み込める社労士は限定されている。一方で産業衛生技術者は職場環境の改善技術の専門性を持ち合わせ、企業の安全衛生に寄与したいと考えているが、どの様に企業とつながり、また企業の経営リスクをどう捉えて安全衛生の改善に努めていくべきかを単独で考えることは難しい場合が多い。ここにそれぞれの専門性と特徴を活かし、問題点を共有し相互理解を深めることで、労働災害の防止に向けて協働できる形を検討していくことを目的としている。

座長：牛澤浩一

国立研究開発法人理化学研究所 安全管理部生物安全課 課長

koichi.ushizawa@riken.jp

	テーマ（仮）	演者
1	社労士の身分と業務（産業衛生技術者向けに）	埼玉県社会保険労務士会・川越支部 小堺社労士事務所 小堺 寿代 様 hk@kozakai-office.com
2	安全衛生・労災防止に対する社労士の関わり、専門職や外部専門家との関わりについて	埼玉県社会保険労務士会・大宮支部 FP・社会保険労務士事務所 富士山 江口 泰弘 様 egg_eguchi2000@yahoo.co.jp
3	産業衛生技術者の現状と問題点	秋田環境測定センター株式会社 環境測定課 石山 智子 様 ishiyama@aksc.co.jp
4	中小企業と化学物質専門家の架け橋となる取組みについて	公益社団法人日本作業環境測定協会 北関東支部 埼玉分会 株式会社高見沢分析化学研究所 下中 洋一 様 y-shitanaka@takamizawa.co.jp
5	協働と連携について	野口労務安全管理事務所 所長 社会保険労務士、労働衛生コンサルタント 野口 清 様 noguchiky@yahoo.co.jp

各演題 20分×5 + ディスカッション（合計 120分）

日時：10/4 16:00-18:00（時間帯確定）

第 34 回日本産業衛生学会全国協議会（2024/10/3～5，木更津）の企画案

日本産業衛生学会 産業衛生技術部会

テーマ 1：小規模事業場の産業保健活動における地域産業保健センター（地産保）の現状と課題（案）

提案者：齊藤宏之（（独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所）

概要（案）

小規模事業場の産業保健活動については、大企業と異なり経済的・人的リソースに限りがあることから、様々な支援が必要である。そのための仕組みとして、地域産業保健センター（地産保）が医師会単位で整備・運用されている。産保センターや地産保の活用については、厚生労働省が実施した「産業保健のあり方に関する検討会」でも触れられており、非常に重要であると思われる一方、地域によって相当のばらつきがあり、必ずしもうまく機能しているとは言えない地産保も存在するのが現状で、その活性化が急務となっている。この企画では、地産保の現状と課題について明らかにした上で、今後どのように地産保を活性化していくかについて議論したい。

座長：齊藤宏之

（独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 ばく露評価研究部 部長
saitoh@h.jniosh.johas.go.jp

	テーマ（仮）	演者
1	産保センター・地産保制度の概要と現状について（仮）	（独）労働者健康安全機構 勤労者医療・産業保健部 調査役 稲毛 健一 様 kenichi-inage@honbu.johas.go.jp
2	産業保健総合支援センターより、産保センターとしての取り組み（仮）	石川産業保健総合支援センター 産業保健専門職 亀田 真紀 様 sanpo17-9@ishikawas.johas.go.jp
3	地域産業保健センターにおける産業保健活動の紹介（仮）	大宮地域産業保健センター 代表 一般社団法人 大宮医師会 会長 松本 雅彦 様 masiko@plum.plala.or.jp
4	中小企業安全衛生研究会から、地産保に求めること（仮）	京都工場保健会 産業医学研究所所長 （中小企業安全衛生研究会 副代表世話人） 森口 次郎 様 moriguchi@hokenkai.jp
5	産業衛生技術専門家から、地産保に求めること（仮）	NAOSH コンサルティング 中原 浩彦 様 hirohiko.nakahara@naosh3776.onmicrosoft.com

各演題 20分×5 + ディスカッション 20分（合計 120分）

日時：2024/10/3（木）16:00～18:00 の予定（若干の前後はある可能性あり）

産業衛生技術部会 御中

教育研修担当 中村、川上

産業衛生技術部会アンケートの結果報告

1. 概要

アンケートの概要は以下の通り

募集期間 : 2024/4/23~5/10

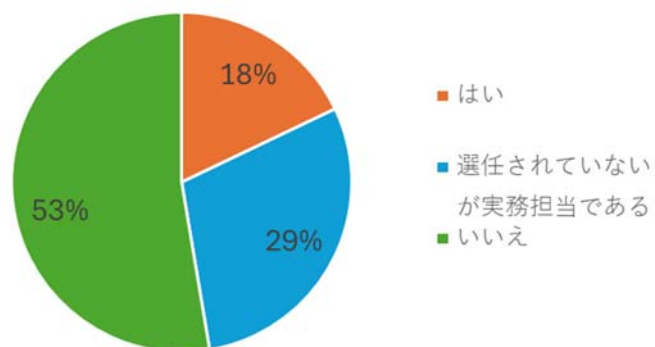
対象 : 技術部会 部会員

形態 : GoogleForm を用いたオンラインアンケート

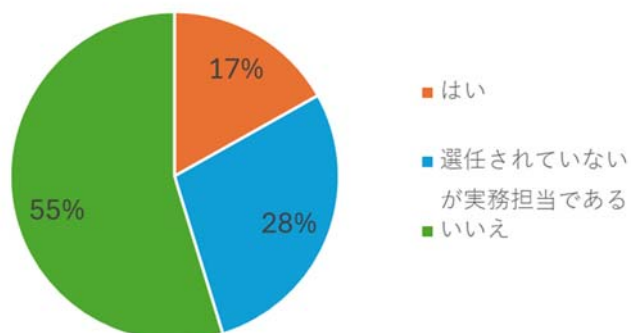
回答状況 : 517 人中 95 名が回答 (回答率 18%)

2. アンケート回答

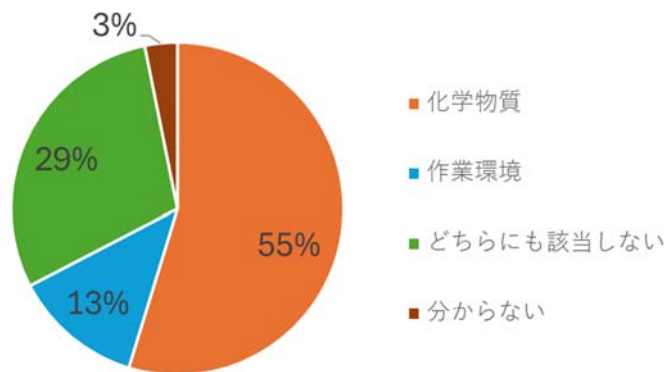
(ア) 化学物質管理者として選任されていますか？ (回答数 95)



(イ) 保護区着用管理責任者として選任されていますか？ (回答数 95)

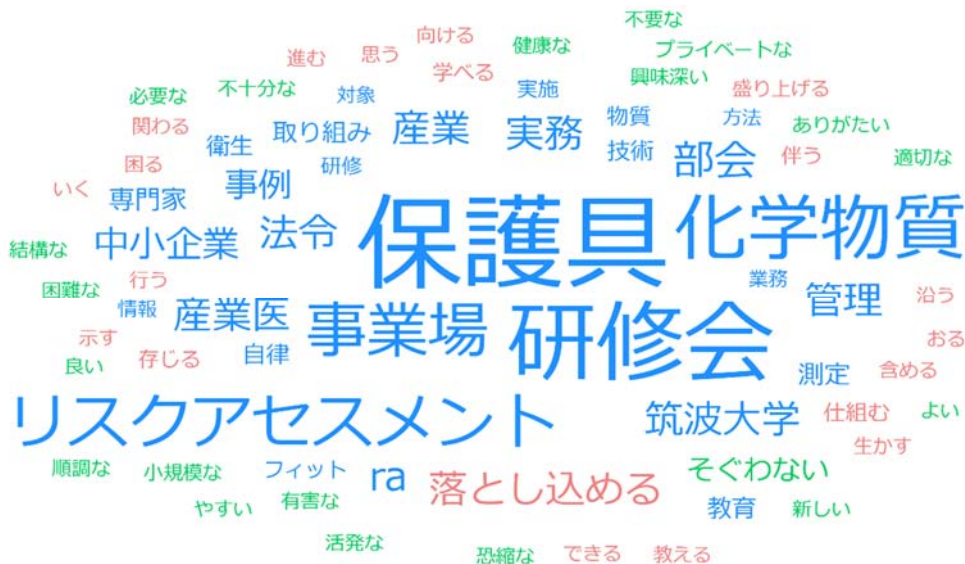


(ウ) 化学物質管理専門家または作業環境管理専門家に該当しますか？（回答数 95）



(エ) 今後要望する研修について（自由記述）

テキストクラウド (<https://textmining.userlocal.jp/>) を示す。



3. 考察

保護具着用管理責任者（実務担当者含む）のうちの91%が化学物質管理者（実務担当含む）も兼任している。（ア）と（イ）の結果が類似しているのはこのためである。また、化学物質管理者（実務担当者含む）の回答者のうちの73%が化学物質管理専門家または作業環境管理専門家（以降「専門家」）であった。技術部会員という時点である一定の実力が期待できる。化学物質管理を担当している部会員の多くは専門家にも該当した。それらを反映して、研修のニーズは化学物質のリスクアセスメントそのものよりもリスクアセスメントの事後措置に移っていると推測される。

一方、化学物質管理や保護具着用には直接関与していない部会員がほぼ半数を占めている。テクニカルな研修のみならず、「事業場内関係者との連携をどのように進めるか」などのノンテクニカルスキルも化学物質管理者に求められることを示唆している。

以上